



発行所 愛媛県今治市大三島町宮浦
日本総鎮守 〒794-1393

大山祇神社社務所

電話 (0897)82-0032

FAX (0897)82-0019

<https://oomishimagu.jp/>

大三島海事博物館
大三島大社講



阿奈波神社宵祭（あなばじんじゃよいまつり）

ホームページのご案内

当社ホームページでは、毎月の祭典や御祈禱時間に関するご案内、御朱印の書き置き対応の予定など、当社からのお知らせを随時発信しておりますので、ご参拝の際はご活用ください。また、ホームページについて何かご希望等ございましたら、編集後記のアンケートにてご回答ください。ホームページは、左のQRコードからもアクセスいただけます。



<https://oomishimagu.jp/>

大山祇神社

検索

七五三詣のご案内

七五三は、子供たちの成長と健康の感謝、今後の成長と健康を祈る儀式です。一般的には、男の子は三歳と五歳、女の子は三歳と七歳にお参りするとされております。

七五三祈禱を受けられたお子様には、御守、千歳飴（数に限りがございます）、その他記念品をお渡しいたします。どうぞご家族お揃いでご参拝ください。

また、当社指定の山口写真館にて七五三の記念撮影を受け付けております。ご希望の方は左記QRコードよりホームページをご参照ください。

山口写真館 Ⅸ〇八九七七八二一〇〇二八



千歳飴と香袋守

山口写真館
七五三ページ



七五三期間…十一月三日（祝・金）

～十一月二十三日（祝・木）

受 付…午前九時三十分～午後四時
祈 禱 料…五千円

※個人の御祈禱は当日、社頭授与所にてお申し込みください。

○尚、祭典がございますので、御祈禱は左記の時間を避けてお申し込みください。

- 十一月 三日 ～午前十一時
- 三十一日 ～正午
- 二十二日 ～午後一時
- 二十三日 ～午前十二時

表紙の写真について

旧暦八月一日（本年は九月十五日）の阿奈波神社例祭に先立ち、前日午後七時より阿奈波神社宵祭を奉仕いたしました。平成二十八年六月に発生した阿奈波神社拝殿損壊を受け、本年も現地対岸の御休み処にて祭典を執り行いました。昨年までの三年間は、地元の方の参列もなく、神職のみの参列でありましたが、本年は本来の姿が戻ってまいりました。

大三島大社講のご案内

当社は古くからこの大三島に鎮座し、日本総鎮守、伊豫國一宮と尊崇されてきた四国第一の古大社でございます。御祭神は大山積大神、またの名を和多志大神と申し、山岳を守護される神様であるだけでなく、五穀成就、海上安全、漁業満足、長命開運、造酒の守護神としても、広く知られております。古来、皇室を始め一般国民に至るまで崇敬が篤く、「大三島詣で」として知られ、遠近より参拝が絶えませんでした。そして崇敬者に満足を与え、便宜を図るため、昭和二年（一九二七）に当時の国幣大社大山祇神社の崇敬者団体として、大三島大社講は設立されました。皆様のご入講をお待ちしております。

【この講社の趣旨】

大三島大社講は大山祇神社の崇敬者を結集し、敬神崇祖の信念に基づき、至誠以て道義を高揚し神恩に奉謝し普く神人合力文明造化の真理を顕現し、大山祇神社の維持を図り次の事業を行う。

【この講社の主な事業】

- 大山祇神社の神徳昂揚
- 大山祇神社国宝重要文化財その他宝物保存修理

- 大山祇神社祭礼神事の保存
- 図書、雑誌の編集発行
- 講演会の開催
- 講社員募集並びに伝道
- その他本講社目的達成のために必要な事業

【入講後の主な待遇】

- 家内安全家業繁栄祈願祭齋行の上、大麻を奉送する。
- 講社大祭並びに毎月一日祭に講社員名簿を奉奠して家内安全家業繁栄の祈願祭を齋行する。
- 大山祇神社宝物館拝観優待券贈呈。
- 大三島海事博物館拝観優待券贈呈。
- 社報「大三島宮」を贈呈。
- 大三島暦を贈呈。
- 大山祇神社例大祭・講社大祭他の御案内

【ご入講の手続き】

- 名誉講社員 毎年 五十口以上
 - 特別講社員 毎年 五十口以上
 - 正 講社員 毎年 一口以上
- 但し、一口 金三千円也
- 入講に关しましては、当社までお問い合わせください。

〒七九四一―一三九三
愛媛県今治市大三島町宮浦三三二七
大山祇神社内 大三島大社 講



宝物館優待券



大三島暦

大三島大社講についてのアンケートを作成致しましたので、こちらから皆様のご意見をお聞かせください。



宝
物
さん
ぽ

▼第二回▲

木造扁額

今回は、重要文化財「木造扁額」についてのお話を致します。

「扁額」というのは指定名で、「神額」と言った方がわかりやすいかもしれません。(以降神額) 神額とは一般的に神社名や神名が書かれた、鳥居や門などに掛けられている額のことです。当社神額には「日本總鎮守大山積大明神」と書かれています。鎮守とは、地を鎮め守ることで、この場合、「日本の地を鎮め守る大山積大明神」という意味です。こちらは平安時代の奉納なのでこの頃には既に「日本總鎮守」と呼ばれていたことがわかります。

この神額を奉納したのは、平安時代の能書家、藤原佐理(九四四〜九九八)です。佐理は幼い頃父、藤原敦敏を亡くし、摂政関白太政大臣も務めた祖父の藤原美頼に育てられます。そして、円融天皇、花山天皇、一条天皇の三代の大嘗会で屏風の色紙形を書く筆者に選ばれます。大嘗会とは、天皇が即位後初めて行う新嘗祭のことで、その中で用いる屏風に使われる色紙形

を書くということは非常に名譽なことでした。

その一方、平安時代末期の歴史物語である『大鏡』では、「御心はへぞ懈怠者、すこしは如泥人ともきこえつべくおはせし」と書かれています(性格は怠け者でだらしない人だと噂されているという意味)。矢の手配を忘れたり(「恩命帖」、女御の入内する際の供奉を怠ったり(「国申文帖」、摂政に赴任の挨拶をせずに都を発つてしまったり(「離洛帖」)した詫び状などが現存



木造扁額

注 釈

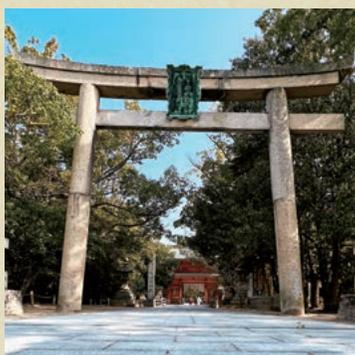
- *1 能書家(のうしよか) 書における高度な技術を持つた人のこと。
- *2 藤原敦敏(ふじわらのあつとし)(九一八年〜九四七年) 佐理の父。天曆元年(九四七)に蔓延した疫病により二十九歳の若さで亡くなる。当時、佐理は四歳。
- *3 藤原美頼(ふじわらのさねより)(九〇〇年〜九七〇年) 佐理の祖父。藤原北家小野宮流の始祖。有職故実に通じていた。
- *4 色紙形(ししがた) 正方形に近い四角形で屏風や障子に貼るなどして、そこに詩歌を書いたもの。
- *5 大鏡(おおかがみ) 作者未詳。藤原道長の栄華を中心に文徳天皇の嘉祥三年

する書の中にあるので、貴族としての評判はあまり良くなかったようです。しかし、千年以上もその書を大切に伝えてきたということは、それほど当時の人々にとっても後世の人々にとっても素晴らしい手だったのではないのでしょうか。

さて、当社の神額も『大鏡』の中に登場します。佐理が太宰大弐の官を辞して都へ帰る途中、伊予の国に入る手前で風や波が吹き荒れていたため何日も船を出すことが出来ず困っていました。すると、夢に大山積神が現れて「天候が荒れて何日も船が出せないのは私の所為です。私の社には額がなく、掛けたいと思うのですが平凡な書家に書かせるのはおもしろくないのであなたに額を書いてほしいのです。この機会を逃したらいつまた機会が巡って来るかと思って、それで、引き留めていたのです」と言われ、その後、伊予の国に入ったところ何日も荒れていたと思えない程天候に恵



一の鳥居



二の鳥居



総 門

まれ、伊予の方へと追い風が吹き、飛ぶように到着しました。そして身を清めて神前で額を書き当社に奉納されました。帰途につくとすべての船が順調に進み、無事に都まで帰ることが出来たそうです。

この話は、当社の『三島宮御鎮座本縁』にも語られています。伊予 権守の任を退いて都に帰る途中、風が吹かず船が出せずに困っていたところ、夢の中に大山積神が現れて、社頭の額を書いてもらいたくて佐理を留めていたと告げられます。佐理は身を清め当社へ参詣し、御神託は天皇にご報告することを伝えると、俄かに波風が吹きはじめ、出航でき、無事に帰りつくことができました。都に帰った佐理は直ぐに天皇へご報告したところ勅(ちく)が出て神額を奉納したと書かれています。『大鏡』とは、時期や細かなところは多少異なりますが、似たような状況で大山積神に望まれ

(八五〇) から後一条天皇の万寿二年(一〇二五)までの十四代、一七六年間に及ぶ歴史を描いたかな文の物語。

*6 太宰大弐(だざいのだい)

大宰府の次官。長官の太宰帥は親王任官なので赴任しないことが慣例。

*7 三島宮御鎮座本縁(みしまぐうごちんざほんえん)

当社の歴史を記している古文書。

*8 権守(ごんのかみ)

国司(守)の代わりに実権を握る場合もあったが、正式な守がいる時に仮の官位として任じられることが多かった。なので赴任することはほとんどない。佐理も伊予権守に任官はされたいが赴任はしていない。

*9 三蹟(さんせき)

能書家として平安時代中期に活躍した小野道風・藤原佐理・藤原行成のこと。平安時代当時は、三賢と言われていた。三蹟という呼び方が定着したのは江戸時代から。

て佐理が神額を書き奉納したという点は一致しています。神にまで望まれたのですから、佐理の書の手は傑出していたのでしょう。

『大鏡』では、当社の神額を書いたことで「日本第一の御手」と評判になったことが語られています。平安の世から時代は下り江戸時代には、小野道風・藤原行成とともに佐理は三蹟と呼ばれ、今でも能書家として尊崇されています。

この神額は現在宝物館に収蔵展示しており、写しが一の鳥居、二の鳥居、総門に掛かっております。それぞれ、石・銅・木（漆塗り）で造られており、違いを見るのもおもしろいかもかもしれません。

大山積神様に望まれて書かれた神額は平安の世から、参詣される方たちを出迎え見守ってきましました。きつとこれからも出迎え見守ってくれることでしょう。



神額軸



神額守

当社では、神額に由来する授与品として「神額軸」、「神額守」、「金の栞」がございます。



金の栞

*10 一の鳥居

宮浦港近くにある高さ約十一メートルの石の鳥居。神額も石造。昭和八年（一九三三）の奉納。

*11 二の鳥居

境内入り口にある石造りの鳥居。寛文元年（一六六一）に伊予国松山藩第三代藩主松平定長により奉納された。神額は銅板に鋳直したもの。

*12 総門

元亨二年（一三三三）の兵火で焼失したが、当社の古図や一遍上人絵伝を基に平成三年（二〇一〇）に再建した。総檜造り銅板葺。神額は木造で漆塗り。

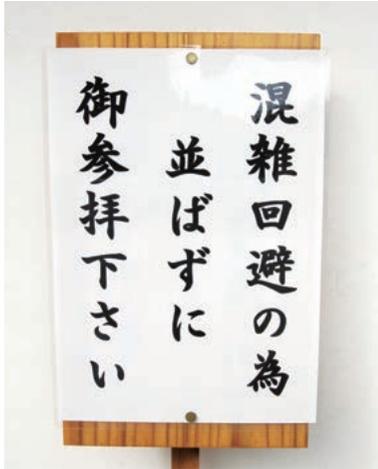
初詣・新年祈禱のご案内

新たな年を迎えるにあたり、左記のとおり対策を施して参りますので、御理解賜りますようお願い申し上げます。

- ・混雑が予想されるため、マスクの着用は適宜ご判断ください。
- ・当社境内では、並ばずに、御参拝ください。
- ・御祈禱件数が多い場合にはお待ち頂くことがあります。
- ・お持ちの朱印帳への押印・墨書はご遠慮頂きます。事前に墨書した朱印紙（和紙）をお渡しします。

（尚、書置き対応とする期間につきましては、後日ホームページにてお知らせいたします。）

三が日にこだわることなく日をずらしお参りなされても結構です。また、ご遠方の方や事情によりご参拝の叶わない方には、郵送による御祈禱を受け付けております。詳細は社務所までお問い合わせください。尚、今後の状況により対応を変更する場合がございますので、ご参拝の際は当社ホームページを御覧ください。



並ばずにご参拝ください



新年祈禱の方には新年神符をお付けします

後厄	本厄	前厄	後厄	本厄	前厄	令和六年 厄年・年祝い <small>※数え年にて表記</small>
女 性			男 性			
平成17年 20歳	平成18年 19歳	平成19年 18歳	平成11年 26歳	平成12年 25歳	平成13年 24歳	
平成3年 34歳	平成4年 33歳	平成5年 32歳	昭和57年 43歳	昭和58年 42歳	昭和59年 41歳	
			昭和38年 62歳	昭和39年 61歳	昭和40年 60歳	
白寿	卒寿	米寿	傘寿	喜寿	古稀	
大正15年 99歳	昭和10年 90歳	昭和12年 88歳	昭和20年 80歳	昭和23年 77歳	昭和30年 70歳	昭和39年 61歳



大山祇神社
TEL〇八九七―八二一〇〇三二

■内子(巫女)募集

大山祇神社では、常勤の内子(巫女)を随時募集しております。
募集要件は次の通りです。

- ◎十八歳から二十二歳までの未婚の女性
- ※年齢はあくまで目安です。一度お電話くだされば、この限りではございません。
- ・勤務時間・午前八時～午後五時
- ・年末年始等繁忙期を除き、残業なし
- ・神社隣接社宅(家賃無料)あり

詳しい待遇・勤務形態等は、当社までお問い合わせください。

大祓のご案内

来る十二月三十一日夕刻、古式による師走の大祓を厳修致します。

これは日常生活において、私共が知らず知らずのうちに触れてしまった自らの心身の穢れ、目に見えない諸々の罪・過ちを祓い、心身ともに爽やかに新年を迎えるための大切な神事です。人形（ひとがた）紙を人の形に切り抜いたもの（ひとがた）にご自身の名前と生年月日を書き、その人形で身体を撫でて息を吹きかけ、罪穢（つみけがれ）を人形に託しお祓いをします。ご希望の方は人形をお渡し致します。ご不明な点等ございましたら社務所までご連絡ください。

〈申込先〉

〒七九四一―一三九三
愛媛県今治市大三島町宮浦三三二七
大山祇神社社務所
TEL ○八九七―八二一〇〇三二一



人形（ひとがた）

編集後記

社報二一―号をお届けいたします。「宝物さんぽ〜木造扁額〜」はいかがでしたでしょうか。このコーナーは私の執筆ではなく、歴史や宝物が好きな当社の事務員に書いていただいています。私自身も記事を読んで初めて知ることが多くあり大変勉強になっていきます。是非感想をお寄せいただけますと幸いです。

さて、本年の社報も今号が最後となりました。二〇八号にて抱負を述べさせていただきましたが、あれから早一年。皆様にとつて令和五年は飛躍の年になりましたでしょうか。私自身、様々な環境変化があり大変充実かつ多忙でしたが、一年前より二回りほど大きくなれたと思っております。新しい年を迎える準備が始まりつつある時期ですが、本年の無事の感謝、また来年の無事を祈りに、お近くの氏神様や、日本総鎮守の当社に手を合わせにいらしてはいかがでしょうかでしょうか。それでは、よいお年をお迎えください。
(工藤)

住所等の変更、送付物の停止等に関しましては、ご一報いただけますと幸いです。



↑アンケートはこちら

大三島宮祭事暦

令和五年十一月〜令和六年二月

十一月	一日	一	祭
三日	明	治	祭
二十一日	神	殿	清掃祭
二十二日	御	更衣	戸開祭
二十三日	新	嘗	祭
十二月	一日	全国	鉦山工場安全祈願大祭
二十二日	月	次	祭
三十一日	大	祓	式
一月	一日	旦	祭
自二日	年	始	祭
至七日	生	土	神事
七日	福	木	神
二十二日	月	次	祭
二月	一日	一	祭
十一日	檀	原	宮遙拜式
紀	元	宮	遙拜式
十七日	祈	年	祭
二十二日	月	次	祭
二十三日	天	長	祭